

■ 平成 30 年度 第 2 回 新潟市スポーツ推進審議会

日時：平成 31 年 3 月 22 日（金）午前 10 時から

会場：新潟市陸上競技場 第 4 会議室

（司会：寺崎）

平成 30 年度第 2 回新潟市スポーツ推進審議会を開催いたします。

進行を務めます審議会事務局のスポーツ振興課課長補佐の寺崎でございます。よろしくお願いいたします。

はじめに、本日の配付資料を確認させていただきます。会議次第、席図、出席者名簿、資料 2「平成 31 年度スポーツ振興課当初予算」の差し替え。各種イベントのチラシをあげさせていただきました。事前送付させていただいた資料 1「新潟市スポーツ推進計画第 2 次『スポ柳都にいがた』プラン実施計画平成 29 年度実施事業 進行管理調書」でございます。資料 1 の別紙。資料 2「平成 31 年度スポーツ振興課当初予算」につきましては、本日差し替えましたので、事前送付したものは使用いたしません。以上ですけれども、よろしいでしょうか。

本日の審議会は、新潟市附属機関等の会議の公開に関する指針に基づき、原則として公開で行われ、会議録につきましては後日、新潟市のホームページに掲載しております。本日は、会議録作成のため録音させていただきます。よろしくお願いいたします。

なお、傍聴者の方におかれましては、お配りした、傍聴に関する要領に従い傍聴をお願いいたします。

はじめに、武藤スポーツ振興課長からごあいさつ申し上げます。

（スポーツ振興課長）

おはようございます。本日は年度末の大変お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。平素、皆様からは本市のスポーツ振興に多大なるご協力を賜りまして心から感謝申し上げます。スポーツを取り巻く環境としては、来年、いよいよ東京 2020 オリンピック・パラリンピックが行われるということでございます。後ほど、予算のところの説明させていただきますが、姉妹都市であるロシア、フランスを中心として合宿の誘致をしております。ちょうど今、埼玉でフィギュアスケートの世界選手権が行われておりますけれども、冬季オリンピックでロシアのフィギュアスケートの選手に、昨年、新潟市アイスアリーナで合宿をさせていただいて、優秀な成績を収められたということがございました。合宿受け入れの際の新潟市の取組みといたしますか、おもてなしの部分も全部見ていただいたということなのかと思うのですが、引き続いて、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会では、ロ

シアの新体操連盟から合宿をしていただくことが決定しました。そのほか、フランスについても、私ども新潟市スポーツ振興課の職員が空手の日本代表監督をしているということで、フランスとつながりがあるという関係もございまして、空手についても合宿誘致に向けて進めている状況でございます。

合宿の受け入れ、気運醸成のためにということになりますけれども、新年度に向けて、私どもスポーツ振興課にオリンピック・パラリンピック推進室を立ち上げることにになりました。スポーツについて、日本全体が盛り上がっていく中で、皆様からもますますの力添えをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

本日は、時間としては12時までとなりますけれども、よろしくお願いたします。

(司会：寺崎)

続きまして、スポーツ推進審議会の西原会長よりごあいさつをお願いいたします。

(西原会長)

審議会の会長を務めております西原です。本日は、先ほど課長からもありましたが、年度末のお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。今日は皆さんに二つ審議していただきますけれども、今までの評価、新年度に向けての予算、事業計画についてですけれども、よろしくお願いたします。先ほど課長からフィギュアスケートのお話がありましたが、私はどちらかというと古い人間なので、昨日、野球を見ていました。イチロー選手が引退するというので、先ほど小島委員も夜遅くまで引退会見を見ていたということですが、あれを見ると、スポーツというのは本当に素晴らしいなということや感動させるものがあるなと思って見ていました。一方で、2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、いろいろところでスポーツの不祥事なども起きているわけで、スポーツというのは改めて、いいところでは本当にいいのですけれども、悪いところになると本当に悪いところがあって、諸刃の剣といった性格を持っているのだなと感じています。このスポーツ審議会では、ぜひ諸刃の剣のいいほうに向かうように、委員の方々からいろいろなご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

(司会：寺崎)

ありがとうございました。

ここからの会議進行につきましては、審議会条例第6条第3項に基づき、西原会長にお願いたします。

(西原会長)

それでは議事に入りたいと思っております。議題(1)「新潟市スポーツ推進計画第2次『スポ柳都にいがた』プラン実施計画 平成29年度実施事業の評価」について、事務局よりお願いし

ます。

(事務局：深沢)

新潟市スポーツ推進計画第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成29年度実施事業の評価について説明させていただきます。

はじめに、本市のスポーツ推進計画について振り返って簡単に説明させていただきます。本市のスポーツ推進計画が策定されたのは平成17年度で、当初は平成18年度から平成26年度までを計画期間としていました。これが第1次「スポ柳都にいがた」プランです。市民がいつでも、どこでも、だれとでも、スポーツに親しみ、楽しむことができる「スポーツに満ちた明るく豊かな新潟市」の実現を基本理念として、市民の二人に一人が、週1回、スポーツや運動を行う割合をスポーツ実施率として50パーセントにすることを到達目標としました。第1次プランの最終年度の平成26年度には47.7パーセントで、おおむね目標を達成することができました。平成27年度からは、第1次プランの基本理念や基本方針はそのまま引き継ぎ、平成34年度までを計画期間として、第2次「スポ柳都にいがた」プランがスタートしました。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機とした取り組みや、障がいのある方のためのスポーツ推進など新たな視点を加えて、市民の週1回以上のスポーツ実施率65パーセントを到達目標としています。

この計画に取り組むために策定されたものが実施計画であり、平成27年度から平成28年度を第1期実施計画、平成29年度から平成30年度を第2期実施計画とし、以後も2年ごとに策定することとなっています。実施計画の事業評価と推進にあたり、本スポーツ推進審議会内にスポ柳都にいがた」プラン推進会議を設置し、この審議会から選出された8名の委員から実施計画事業の実績評価をしていただき、本日のスポーツ推進審議会でご意見をいただきながら、事業の施行管理を行っております。

議題(1)の平成29年度実施事業の評価については、所管課による1次評価と、当審議会での2次評価について諮るものです。なお、2次評価については、昨年9月28日に『「スポ柳都にいがた」プラン推進会議』にて評価していただきましたので、その結果を基に審議会の皆様からご意見をいただければと思います。

それでは、資料1「進行管理調書(抜粋版)」をご覧ください。この資料については、第2期実施計画に記載された事業の平成29年度の1次評価と2次評価が記載されています。2次評価についてはスポーツ推進審議会での評価となりますが、この審議会から選出された8名の委員により、事前に評価していただいております。抜粋版ということですが、スポーツ振興課が所管していない事業は、それぞれの所管課が管理している計画により評価を受けていますので、スポーツ推進審議会では評価をいたしません。そのため、関係者所管事業を省き、

当審議会で評価を受けるものだけを掲載した抜粋版を資料として事前送付させていただいております。また、ご参考までに、すべての事業及び所管課の一覧を資料1別紙として事前配布させていただいております。

資料1の1ページをご覧ください。左から、事業名、事業内容（取組みの結果）となっており、その次から所管課による評価（1次評価）となっています。平成29年度の数値目標とそれに対する実績が記載されています。それを踏まえた達成度を所管課で評価しております。達成度については、ページ上の四角部分に注釈がありまして、Aの「指標を上回って達成」から、Eの「未着手」までの5段階です。事業の方向性については、1の「充実」から7の「その他」までの7段階です。所管課による評価の次が、新潟市スポーツ推進審議会による評価となっています。評価は3の「順調に取り組まれている」から0の「早期に取り組む必要あり」までの4段階で、この審議会から選出された8名の委員から評価していただいた内容を記載しています。

本日は、事前に資料を送付させていただいておりますので、事業名、事業内容、1次評価、2次評価について、1事業ごとの説明は省略させていただき、進行管理が思わしくないもの、評価が低いものを中心に基本方針単位で説明させていただきます。基本方針については左上の囲み部分でご確認いただけます。ここには、基本方針、基本目標が記載されています。基本方針2、「健康スポーツ：生涯にわたるスポーツ活動を推進します」とありますが、この健康スポーツに関しては、1ページとその裏の2ページになります。まず、基本方針、健康スポーツに関する事業です。1ページから2ページの全11事業をご覧ください。所管課による1次評価の達成度がB以上の事業は7事業、C以下は4事業です。評価がC以下の事業について説明します。1ページのNo.3「早起き野球大会」。エントリーチーム数160チームの目標に対し156チームの実績なので、所管課の評価はCとしています。No.5「新潟ヒルクライム」については、エントリー者数500人の目標に対し486人の実績なので、所管課の評価はCとしています。No.6「氷上スポーツ体験学習推進事業」については、実施校数70校の目標に対し、実施校54校の実績なので、所管課の評価はCとしています。No.7「市民綱引き大会」については、エントリーチーム数が一般の部で16チーム、小学生の部で50チームの目標に対し、それぞれ15チーム、48チームの実績なので、所管課の評価はCとしています。

次に、審議会による2次評価についてです。11事業のうち、2の「おおむね取り組まれている」以上の評価が8事業、1の「より積極的な取組みをお願いする」以下の評価が3事業です。1という評価はいずれもしっかりと取り組まれているが、いい意味で、より積極的に取り組んでもらいたいということで評価をいただいております。1の評価の事業について説明します。2ページのNo.6「氷上スポーツ体験学習推進事業」。学校の事業として検討するこ

とはできないか、クラブチームなどを作って氷上競技人口を増やしていくといった取組みもできないか、検討していただきたいとのご意見をいただきました。No.7「市民綱引き大会」については、冬場の体を動かす機会を積極的に提供できているが、地域差などがあるため、全市的に広げていっていただきたいとのご意見をいただきました。No.10「市民総合体育祭」については、現在も種目数は多いが、昨今増えているニュースポーツの導入や、競技スポーツだけではなく、(ダンスなどの)発表の場などさまざまな形でスポーツに触れることができる機会となるよう、取組みを期待したいとのご意見をいただきました。

続いて、競技スポーツに関する事業です。5ページから6ページの全6事業をご覧ください。1次評価の達成度がB以上の事業は5事業、C以下は1事業です。評価がC以下の事業は、No.2「スポーツ指導者講習会」。講習会開催数1回、参加者100名の目標に対して、開催数1回、参加者62人の実績なので、所管課の評価はCとしています。審議会による2次評価は6事業すべてについて2以上に評価をいただいております。所管課での評価をCとしたNo.2については、複数回開催の検討も含め、今後、より工夫しながら取り組んでいただきたいとのご意見をいただいております。

続いて、「見るスポーツ」に関する事業です。7ページから8ページの全7事業をご覧ください。所管課による1次評価の達成度がB以上の事業は5事業、C以下は2事業です。評価がC以下の事業について説明します。No.2「プロ野球招致推進事業」については、プロ野球公式戦開催数1試合の目標に対し、雨天により開催中止という実績なので、所管課の評価はCとしています。No.3「大会、合宿等誘致の推進」については、国際大会2大会、全国大会7大会、ナショナルチーム合宿2回の目標に対し、それぞれ1大会、2大会、3回という実績なので、所管課の評価はCとしています。審議会による2次評価は7事業すべてについて2以上の評価をいただいております。所管課での評価をCとしたNo.2については、試合は雨天中止となったが、トークショーを実施した。観戦招待なども継続して取り組んでいっていただきたいとのご意見をいただきました。また、No.3については、競技団体等と連携して順調に取り組まれているとのご意見をいただきました。

続いて、支えるスポーツに関する事業です。9ページから10ページの全7事業をご覧ください。所管課による1次評価の達成度がB以上の事業は6事業、C以下は1事業です。評価がC以下の事業について説明します。No.6「スポ柳都にいがた指導員養成研修会」については、参加者数100人の目標に対して60人の実績なので、所管課の評価はCとしています。審議会による2次評価は、7事業のうち2以上の評価は4事業、1以下の評価は3事業です。こちら、しっかり取り組まれているが、より積極的に取り組んでもらいたい、という意味で1の評価をいただいております。1の評価について説明します。No.4「スポーツ推進委員の

活動推進」については、委員の年齢層が高めなため、若い人にも積極的に入ってもらえるような取組みを進めていっていただきたいとのご意見をいただきました。No.5「スポーツ振興会の育成・支援」については、研修会等の内容はよかったという意見を参加者からいただけており、評価できるが、研修内容を地域や振興会全体へ広げる取組みを実施していただきたいとのご意見をいただきました。No.6「スポ柳都にいがた指導員養成研修会」については、参加者数が目標を下回っているため、指導者育成も含めて、今後、より広げていっていただきたいとのご意見をいただきました。

最後に、スポーツ情報ネットワーク、スポーツ医科学支援体制に関する事業です。13ページの全3事業をご覧ください。所管課による1次評価は3事業すべてについて達成度B以上としています。審議会による2次評価でも3事業すべてについて3の「順調に取り組まれている」の評価をいただいています。

早足での説明になりましたが、議題（1）「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成29年度実施事業の評価については以上になりますので、資料1の平成29年度スポーツ振興課所管事業の実績と評価についてご意見をいただきたいと思えます。

（西原会長）

ありがとうございました。

委員の方々からご質問、ご意見等がありましたら、よろしくお願ひします。

たくさんあると、なかなか焦点が定まりにくいかもかもしれません。各論というか、このところはこうなのですかというようなことでけっこうです。

（太田委員）

最初に皆さんが考えている間に少し思い立ったところをお話しさせていただきます。7ページの「プロ野球招致推進事業」や「大会、合宿等の誘致数の推進」でC評価となっているのですが、審議会での評価も上がっておりますが、一般市民の立場からしますと、このような取組みが活発化してくれば、新潟の活性化ということにもなりますので、ぜひ、年1回とかいうのではなく、プロ野球選手などのスポーツ観戦を市民ができる機会をもう少し増やしていただきたいと思えます。また、選手が合宿等をやっている姿を生徒たちが見る機会もあるかと思えますので、合宿等の誘致についても、さらにチャンスが増えるように推進していただきたいと思えます。

私もこの会議に何回か参加させていただいて、いつも申し上げているのですが、新潟市の交通事情の充実が、より皆さんがアクセスしやすい、自家用車がある人だけではなくて、公共交通機関が円滑に使えるようなシステムにされることが、県外、市外からおいでになる方ももっと使いやすくなると思えますので、再度、お願いしたいと思えます。

(西原会長)

ありがとうございました。

これについて、事務局で何かありますか。

(事務局：武藤)

ご意見、ありがとうございます。まず、プロ野球の観戦については、新年度は1回だけではなく2回ということでは予算組みされておりますが、これは県と協議しながらやっていきたいと思っていますので、拡大していく方向になるかと思えます。合宿につきましても、トップアスリーの練習風景や交流する機会などを設けることとなりますので、トップアスリートの方の競技に触れる機会が増えてくれば、スポーツの底上げにつながりますので、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

(西原会長)

ありがとうございました。

スポーツで、交通インフラについてということはないかもしれませんが、私も思うのですけれども、新潟は東京から新幹線で2時間程度なので、比較的いろいろな大会、会議を新潟で開きたいというニーズがすごくあるのです。ところが、新潟に入ってからアクセスが非常に悪いということがあって、スポーツの立場からも、そういったことを少し提言していくことも大事ではないかと思えます。

(事務局：武藤)

合宿誘致の際にも、新潟には東京から2時間で来れるところを宣伝しながら、誘致を進めているところがあるのですけれども、市内に入ると、例えば体育館がバス停になっているところが新潟にはあまりないということも言われています。私どもは専門部署ではないですけれども、交通関係の担当部署と連携しながら進めていきたいと思えます。

(青野委員)

2ページのNo.10「市民総合体育祭」でございます。2次評価で1ということで、しっかり取り組まれているが、より積極的にというところで、現在も種目数は多いが、昨今増えているニュースポーツの導入や競技スポーツだけではなく、(ダンスなどの)発表の場などというところで、よさこいなどで9月に万代を中心に発表の場があるのですけれども、手前味噌で申し訳ないのですが、私は体操を専門にやっておりますが、鳥屋野総合体育館で体操発表会を、小規模というか、一つのグループで発表の場を設けているのですけれども、ダンスプラス体操の発表の場という、各地域の公民館等で健康体操等に取り組まれているグループもたくさんあると思えますので、ぜひ、体操も入れていただきたいということでお願いしたい。先ほどの交通インフラのところでも出ていましたように、鳥屋野総合体育館を利用して発表

をやっているのですが、やはりバス停がなくて、学生を発表の場に招へいしているのですが、バス停がないと、弁天橋で降りて10分歩いてきたり、特に12月の発表会などですと、天候が悪かったりすると、危険な場面もございますので、スポーツの大きな大会が開催されるようなところには、新潟交通等と連携していただき、バス停を設置していただくと、学生、子どもたちも親が送迎することなく参加できる場が広がるのではないかとということで、お願いしたいと思います。

(事務局：椎谷)

教室関係になりますが、スポーツ施設を管理運営している指定管理者では、年間を通じたスポーツ教室の中で、健康教室やダンス系の教室などを開催しています。また、一部のダンス教室では発表場とかを設けている施設もあります。

(小島委員)

資料をまとめていただいてありがとうございます。まず、達成度についてはあくまでも人数というのが基準になっているので、例えば早起き野球であったり、そういったものは新潟市の人口が減っていますし、スポーツ人口だけではなく全体的な人口も減っているので、人数だけで評価がCになっているというのは、それほど落胆するような結果でもなく、すごく頑張っているし、推進委員が評価している数字を基準に見たいと思っています。大変頑張ってきているというのが非常によく分かりました。

「大会、合宿等の誘致の推進」の数について質問なのですけれども、全体ではCという評価になっていますが、ナショナルチームの合宿で見れば増えていて、それで基準を合わせればAですよ。全国大会の数は7という目標をあげていたけれども、結果2だったと。これだけ見ると、評価はCではなくDになってしまうのですが、そもそも7という数字をあげたときに、誘致できるであろうというものが前提に何かあって7という数字なのか。そこが知りたいのです。そもそも数字をあげるときに、前もって情報などがあったのかどうか。お聞かせいただけますか。

(事務局：武藤)

目標の設定にあたっては、過去の実績などを参考に設定しています。この合宿については、見通しがあって7という数字に設定したわけではなくて、過去の実績から見て、このくらいではないかということで設定させていただいたのですが、結果として、実績として二つしかなかったということです。

(小島委員)

ありがとうございます。減った理由が、今まで皆さんがおっしゃったような交通アクセスなどが影響しているのかとも思いました。

(青木委員)

5 ページのNo.2 「スポーツ指導者講習会」、10 ページのNo.6 「スポ柳都にいがた指導員養成研修会」は指導者のための講習会かと思うのですが、指導者をたくさん養成していかないとなかなか盛り上がらない部分があるわけですが、受ける方が少ないような状況があって、これでは普及には結びついていかないのではないかとと思うのですが、その辺の人数の少なさということで、実施時期が悪いのか、それともPRの仕方が悪いのか。対象者が限定して、ダイレクトメールで連絡しているのかどうか分からないのですが、この辺の人数をどんどん増やしていかないといけないのではないかと感じる感じがして、少し気になる数字かと思いました。

(事務局：武藤)

ありがとうございます。例えば5 ページでいいますと、講習会の1次評価で、数としては下回る結果となったのですが、実際に講習会を受けていただいた方にアンケートを採らせていただきました。人数が減ってきているというのは、確かに全体的にいえるところかと思うのですが、こういったアンケートを繰り返すことによって、満足度を高めていき、中身を充実していくような取組みをして、地道に数を増やしていけるようにしていきたいと思っております。

(西原会長)

今、指導者の問題というのはいろいろなところで問題になっていて、旧態依然のコーチングや指導の仕方というのもまだまだあるのだなと。そういった人たちにとって、新しいことを取り入れるというのはなかなか難しいので、そこら辺の構造的な問題は多分、日本社会全体の構造的な問題にもかかわってくるのではないかと思います。ただ一方で、この委員でもある山本先生などは野球で投げすぎの問題などがあるので、そういったことをきちんと指導していく、そういった知識を得ていこうということにしていますけれども、徐々にそういったものを盛り上げていかないといけないのではないかと思います。あとは、啓発というか、できるだけ指導者の方々にうまい形で、期間の問題もあったり、指導者の方は土日など仕事をしていて、こういった研修会に出られないということもあるので、その辺は工夫をしていかなければいけないと思います。

(齋藤委員)

今のことに関連して、基礎的な質問のような、意見みたいもので申し訳ありません。スポーツ指導者といっていますけれども、具体的にどのような人たちが代表を担っているスポーツ指導者なのですか。スポーツ指導者といつも出てくるのだけれども、種目別に毎年やっているのか、高校の指導者を対象にしているのか、一般のクラブの指導者を対象にしているのか

か。あまりにもアバウトすぎて、前回は目標が 100 人で、今回は 62 人と減りました。単なる人数の問題ではないような気がするのです。その辺はどうなのですか。

(西原会長)

この辺のターゲットや、来られる方はどんな感じですか。

(事務局：椎谷)

スポーツ指導者講習会の募集の対象については、広く一般市民を対象にしたもので、少年少女スポーツクラブ関係者や、当協会加盟団体のジュニア強化担当者等を対象に募集をしています。募集の内容に関しては、事前に各団体に通知を行うほか新聞や市報にいがたの紙面を使っております。指導者の中には、各競技団体の連盟を通じて指導に関するライセンスを取得している方もかなりおりますので、チーム内のコーチまたは保護者に投げてしまうということもありがちです。専門性の中でも、参加しやすい家庭における栄養の摂取方法など含め、開催時期や開催回数などを考慮し、実績として 60、70 人程度でしたので目標値を目指して参加を増やしていきたいと思っています。

(太田委員)

スポーツ協会を通じてこういったご案内を提示いただいておりますけれども、競技団体のほうでは協会の公認指導者ですとか講師とか、専門性の高い事業があります。こちらの記載の理由・原因のところですと、前年の栄養学に比べて保護者の参加が少なくということで、保護者で見守る立場のスポーツ指導者的なもの、専門性の高い指導者の両方に募集をかけられていると思うのですが、スポーツ指導者のほうは、例えば更新単位を取得できるようなものも優先順位として参加してまいりますので、そういったいい事業ですので、父兄ですとか学校でコーチとして入っていらっしゃる方々向けとか、競技によらず、専門的な知識を提供するような二層構造のような講習会をお考えになるのも一つの方法かと、今、考えました。

(事務局：椎谷)

今月開催した指導者講習会ですけれども、今回は二部構成で実施いたしました。午前中は医療福祉大学の先生によるコーチング方法についてと、午後は保護者も参加しやすい、スポーツ栄養士さんをお願いし、ジュニア期における食事方法についてと題して講義をしていただきました。

(西原会長)

それは逆に多いですか。ターゲット、対象者を限定して、こういう話をするんだよとやったほうが、そのほうが参加者は多いというか、反応がいいですか。

(事務局)

午前中については 60 人を超えた参加者数でしたが、午後の部は参加者の都合により半数程

に落ちています。

(齋藤委員)

二部制にしたり、いろいろな試みをされているということですが、個人的には、年何回もできないと思うのですけれども、やはりターゲットをもう少し絞り込んでやったほうが、自分としても行きたいなという人は、対象者は少なくなるかもしれないけれども、出席率そのものが高くなるし、せっかく講習会をするので、有効率というか、有効打を放てる可能性が多いのではないかと思います。私が本当に申し上げたかったのは、スポーツ指導者講習会とあまり一括りにしないで、もう少しターゲットを絞った募集をしていただきたいということが一つと、どなたかがおっしゃったかもしれないけれども、各協会、スポーツ団体の協会がライセンスみたいなものを取得しています。

今、指導者のコンプライアンスというか、社会的にいろいろと問題になっています。各競技団体ではやっていますということは絶対おっしゃると思うのだけれども、市が一つリードして、こんな言い方は失礼ですが、もっとレベルの高い、競技だけではなくて、全体の競技を指導する人たち、もちろん、私が申し上げているのはライセンスを持っている人です。その指導者のコンプライアンスをもう少し講師を対象に話をしてくれる。そうしたら、競技団体も、一人だけは派遣しようというような形の講習会があつて、その講習に参加した指導者は、その協会の中でその話を伝える。当たり前のことかもしれませんが、今、社会的に問題になっているのは、指導者はライセンスを持っている人が果たして全員適切な指導方針のもとにされているのかどうかを見直そうという社会的な機運ですよね。その辺のところの使い分けというか試みを、すぐには難しいと思いますが、各競技団体と連携をとっていただいて、新潟市としてリードしていただけるような方法を、私は個人的に期待したいと思っております。

(田村委員)

インディアカ協会として、毎年、ご案内をいただいて、何年もこの講習会を受けさせていただいています。今年もジュニアは使っていないのですけれども、参加させていただいて、すごくいいお話、参考になる話で、クラブに戻れば、主導的な立場でなるので、その点でもすごくためになりますし、前回のボクシングの方のお話も大変よかったですし、栄養のこともその前の年にありましたけれども、保護者としてもいいお話なので、人数が少なくてもいいなと思います。県民会館でやってもいいくらいです。いい方を呼んでいただいたと思います。

(西原会長)

ありがとうございました。

今、ご意見いただいて、事務局としてもいろいろと工夫をされているので、これからさらにいいものを作ってもらえばいいと思います。広く浅くやると難しいのです。それらの評価がありますよね。人数は何人というよりも、今ほどおっしゃったように、非常に充実したというものは評価として出てくると、これがきちんと生きてくるのではないかと思います。

(五十嵐委員)

評価というのは、あくまでも目標の人数に対しての参加者ということで評価させているような形もあると思うので、開催数1回で100人というのは、どういった目安で考えたのか。競技者数とか、いろいろなスポーツに参加している人によれば、指導者の数がほうが絶対に数が少ない。100人に対してどのような目論見でこの数字にしたのか。それが80でも、例えば70でもということにすれば、これはCではなくなっていくわけで、その辺のところの人数の設定がどうなのかと思いました。

(西原会長)

せっかくいい試みで、多分、いろいろな指導者講習会は質的には高まっていると思うので、評価の仕方がもう少しあるといいかもしれないですね。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(2)「平成31年度主要事業予算について(案)」の説明をお願いします。

(事務局：武藤課長)

事前に資料を配付いたしました。本日、差し替えということで配付させていただいております資料2「平成31年度スポーツ振興課当初予算」をご覧ください。

新潟市スポーツ推進計画第2次「スポ柳都にいがた」プランにおいては、「健康スポーツ」、「競技スポーツ」、「みるスポーツ」、「支えるスポーツ」の四つの基本方針として、それぞれ分野にまたがるスポーツ情報ネットワーク及びスポーツ医科学支援体制を五つの柱として、施策を推進していくということでございます。

平成31年度の当初予算につきましては、2月議会でご審議いただいております。今日の午後採決を迎える状況になっております。平成31年度の当初予算について、方針ごとに各事業を説明させていただきたいと思っております。

資料2の一番下の合計額を見ていただきたいのですが、平成31年度当初予算額は6億1,894万7,000円ということで、平成30年度に対し101万1,000円の減となります。前年度比でいきますと99.8パーセントということで、おおむね同額の予算となっております。上から順に説明いたします。はじめに人件費ですけれども、スポーツ推進課の一般職員14名、非常勤職員1名の人件費でございます。以下、金額につきましては省略させていただきます。

次に、「健康スポーツ」に関する事業でございます。1ページ目が全体の事業を記載してお

りますし、2ページ以降に事業概要などが記載されております。1ページ目、2ページをご覧くださいながらお聞きいただきたいと思っております。はじめに、新潟市シティマラソンです。国内外から約1万2,000人のランナーを募集し、37回目となる大会を開催し、市民の健康増進や交流人口の拡大を図ってまいります。後ほど、チラシをご説明させていただきますけれども、平成31年度第37回に関しては、今までは体育の日ということで、連休の最終日にやっておりましたが、連休の中日に開催してほしいという声を多数いただいておりますので、各方面と調整しながら、平成31年度につきましては連休中日での開催を予定しております。

次に、少年少女スポーツ大会です。夏休み中における児童の健全育成を目的に、小学生を対象に、野球、サッカー、ミニバスケットボール、バレーボールの4競技のスポーツ大会を開催いたします。

次の早起き野球大会は、5月下旬から7月下旬に、日本一の参加チームを誇る早起き野球大会を開催し、大会を通じてスポーツの振興と健康増進を図るものです。

次に、自転車活用事業です。自転車で市内各所をめぐる新潟シティライドを開催するほか、新潟ヒルクライムということで、1マイルタイムトライアルとヒルクライムの2種目で行います。

1ページと3ページをあわせてご覧ください。氷上スポーツ体験学習については、児童に氷上スポーツに親んでもらうため、市内の小学校が校外活動で新潟市アイスアリーナを利用する際の経費を助成するものでございます。なお、このたび、新潟市アイスアリーナのネーミングライツパートナーが、今までアサヒアレックスアイスアリーナということで、アサヒアレックスさんからネーミングライツパートナーになっていただいていたのですが、平成30年度末をもって契約が切れるということで、新たなネーミングライツパートナーを募集しております。このたび、三菱ガス化学株式会社さんからパートナーになっていただくことになりました。4月からはMGC三菱ガス化学アイスアリーナとなります。5年契約で、年間1,200万円の命名権をいただけるということでございますので、各事業に充当させていただきたいと思っております。今回、氷上スポーツ体験学習についても命名権料を充当し実施していきたいと思っております。

続いて、「競技スポーツ」でございます。新潟市スポーツ協会補助金につきましては、各種大会の実施や指導者の育成、ジュニア層を中心とした選手の育成・強化を図る新潟市スポーツ協会に対し、運営費・事業費の補助を行うものでございます。

次に、国際大会等出場選手激励費ということでございます。国体及び海外の国際大会に出場する選手や、全国大会に出場する小中高生に激励金を支給するものでございまして、この事業におきましても、先ほどのアイスアリーナの命名権を充当して実施したいと考えており

ます。

次に、氷上スポーツジュニア選手育成事業は、氷上スポーツの普及のため、体験会や教室などを開催するもので、こちらの事業に就きましても、アイスアリーナの命名権を充当したいと思っております。

次に、障がい者スポーツ大会関連事業ですが、10月12日から14にかけて開催される第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」へ政令市としてチームを派遣するものでございます。その他、この大会に向けて出場する選手の選考ということで、県とともに県大会を開催するほか、スポーツ大会や障がい者のスポーツ教室、選手育成・強化を実施するものでございます。

次に、「目指そう、支えようパラリンピアン」障がい者スポーツ推進事業でございます。パラリンピック競技の合宿誘致に取り組むほか、パラリンピアンによる障がい者スポーツ体験会等を開催します。

次に、氷上スポーツ選手強化事業ということで、新潟市アイスアリーナを利用される団体の選手強化事業に対して、施設利用費の一部を補助するものです。こちらにつきましても、アイスアリーナの命名権を充当して実施したいと思っております。

続いて、「見るスポーツ」です。1ページ、4ページをご覧ください。ドキドキ・ワクワクスポーツふれあい促進事業でございます。プロのサッカー選手、コーチの中学校派遣指導、年中児から小学生までを対象としたサッカー教室を開催するほか、サッカーJ2、プロ野球、バスケットボールの親子観戦招待を行い、青少年の心身の健全育成とスポーツ文化の醸成を図るものでございます。

次に、プロ野球招致推進事業では、官民、県と協力して推進しているプロ野球新潟招致委員会の一員として、取組みを推進しており、プロ野球公式戦の観戦招待を引き続き実施するものでございます。

次に、ナショナルチームの合宿誘致、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた合宿誘致では、新潟市文化・スポーツコミッションと連携し、引き続き、ナショナルチームの合宿誘致を進めるものでございます。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けては、ロシア、フランスを相手国としてホストタウン登録を行っておりまして、今後の合宿誘致や交流事業の実施に向けてPR、事前視察、事前合宿の受け入れを進めていきたいと思っております。

次に、氷上スポーツイベントの開催については、氷上スポーツの普及や新潟市アイスアリーナの利用促進のため、国内のトップスケーターによるエキシビションや、氷上スポーツ体験教室等のイベントを行うものです。この事業においてもアイスアリーナの命名権料を充当

したいと思っております。

次に、オリンピックムーブメント推進として、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての機運醸成ということで、オリンピックによる各種スポーツ教室、デーランといったオリンピックデーランといったような事業を開催するものでございます。

次に、国際ユースサッカー in 新潟については、海外 2 チーム、日本代表、県選抜のユース年代により、毎年 7 月に開催される新潟県サッカー協会主催の国際大会で、これに対して負担金を支出するものでございます。

以下、1 ページだけになると思いますが、「支えるスポーツ」でございます。スポーツ施設の管理運営につきましては、当課が所管しております陸上競技場、体育館の指定管理料や施設用地の賃借料であり、スポーツ施設の整備につきましては、平成 31 年度におきましては、新潟市庭球場において老朽化が進んでおりますので、芝生の張り替えをさせていただきたいということなどをはじめとした、緊急修繕に係る工事請負費などでございます。

次に、スポーツと音楽都市功労者表彰事業につきましては、昭和 43 年のスポーツと音楽都市宣言を記念し、市のスポーツ・音楽の振興に寄与された方々を、毎年表彰させていただくものでございます。

次に、スポーツ推進委員関係費につきましては、スポーツ推進委員の皆様の人件費や研修費などでございます。

次に、スポ柳都にいがたプラン推進事業につきましては、審議会内に設置したスポ柳都にいがたプラン推進会議や、子どもの指導者育成を目的にした指導者研修会の開催経費などでございます。

次に、スポーツ情報ネットワーク・医科学支援体制です。目指せオリンピック！医科学サポート事業は、審議会の皆様からご提案いただいたものでありますが、平成 29 年度より市のスポーツ協会の補助金に合算させていただいております。数字につきましては括弧でくくっておりますけれども、先ほどのスポーツ協会補助金の中に入っておりますので、再掲という形でございますので括弧書きをさせていただいているものでございます。

最後に、スポーツ振興諸経費につきましては、スポーツ推進審議会関係費ということで、スポーツの推進に関する諸事項などを審議していただくための本審議会の開催経費などでございます。

大会補助金・負担金・事務費等につきましては、新潟県駅伝競走大会や県体育施設協会などへの負担金、スポーツ振興課の運営に係る事務費などでございます。

以上で、平成 31 年度の当初予算についての説明とさせていただきます。ありがとうございました。

(西原会長)

ありがとうございました。

平成31年度スポーツ振興課の当初予算につきまして、ご意見等がありましたらお願いいたします。

(山内委員)

予算の内容を見ていくと、内々だけといいますか、そんな感じがあるのだけれども、この内容と関係があるかどうか分かりませんが、今、スポーツ人口の減少がいわれているわけなのですけれども、特に野球であるとか、団体競技の人气が薄いということで、学童の野球人口が激減しているようなことがあります。その中で、事業名の中に、各競技団体との関係もあるかもしれませんが、何とか底辺といいますか、学童の団体からスポーツ人口の減少が食い止められるような長期計画的に、だんだん増加していることが目に見えるような状況での取組みを何年間にわたっていければと思います。ただ、放っておくと減少していきばかりなので、その辺で、スポーツ振興課としての競技人口増加への取組みに対して予算化できないのかと。これは各競技団体との関係も出てくるとは思いますけれども、私は野球に関係していますけれども、何とか増加するような方法はないのかなと。

(事務局：武藤)

私どももいろいろPR等に努めてきてはいるのですけれども、委員がおっしゃるとおり、確かに事業によっては参加者が、減少してきているという部分もあるかと思えます。そういった中で、小さいときからいろいろな競技に携わっていただけたということが、スポーツの底辺拡大といいますか、そういったところがまず大事だと思います。スケートの話ばかりして申し訳ないのですが、アイスアリーナの、校外学習といった形で今まで進めていたことが、学校の活動の一環として体験していただきながら、こういったおもしろいものもあるということで、少しでも携わっていただけたということが拡大できればありがたいと思います。ジュニアの方といいますか、年齢の低い方から携わっていただければ、スポーツにかかわっていく方が増えてくるのではないかという期待をしている現状です。

(五十嵐委員)

少し話の観点がずれるかもしれませんが、いろいろな種目があるわけですけれども、少年少女スポーツ大会だとかといった中で扱っている種目もありますが、我々の年代で考える子どもが興味を持ちそうなスポーツ、本当に子どもたちがやりたいスポーツというのは何か、今、子どもたちは何を欲しているのかと。もしかすると、ギャップがあったりすると。最近、アーバンスポーツといってローラースポーツなどがやられている場面がたくさんあります。ボルダリングなどに熱中する若者などがたくさんいるということで、そういったもの

も工夫しながら、競技人口を増やそうということですが、やっているスポーツは何かということも子どもたちに興味をもらってもらう。プラス、市のスポーツを考えるときには、これから高齢者がどんどん増えてくるわけですから、そういった方もできるようなスポーツがあるのかどうかとか、そういったものを加味しながら、今後、検討していただくと、競技人口なども、個性的というのは語弊があるかもしれませんが、小さいお子さんはやりたがるのではないかと思います。

(西原会長)

ありがとうございました。

予算という組み方で事業名になっているのですけれども、その背景に当然、政策として、例えば子どもたちの競技人口が減っているとか、あるいは競技のニーズが変わってきたりというのがあったうえでの事業だと思うので、なかなかこの中には出てこないと思いますけれども、その辺も少し明確にしたうえで、だからこの事業なんだよということがあると見やすいと思います。

今日、たまたま小体連、中体連の関係の委員の方々がおられませんけれども、やはり教育委員会との連携というのはすごく大事かと思うので、そこはぜひ、いつもここで出ていますけれども、特にこれから部活動が地域の中に移っていくとか、いろいろな形の変り方がありますので、教育委員会ときちんと連携を取っていくというのは大事かと思っています。

(小島委員)

これは私の個人的な考えなのですが、私も今、職員として小学校に勤務していますけれども、スポーツに関しては小学校からでは遅いと思っています、どんなスポーツにかかわってきたいかというのは、親の影響もものすごく大きいですし、幼少期にどれだけ遊んだか、木登りしたか、どれだけ体を動かして感性を鋭くしたかによって、今、あまりスポーツ音痴という言葉は聞かなくなりましたが、スポーツに携わらない子どもが増えてきているのが実情です。小学校ではなく、それより前、幼稚園であったり、保育園であったり、親がどのようにかかわってきたかということもすごく大きいのです。これは予算の話とはずれるのですけれども、スポーツは野球、バスケ、サッカーにはこだわらない。これはずれるかもしれませんが、e スポーツという言葉も世界的には出てきていて、私自身はそれはスポーツではないと思うのですけれども、世の中がそういうふうに変ってきている。先ほど五十嵐委員がおっしゃってくださったように、今の子どもたちは何がしたいのというところをもう少し探っていくと、それこそ新潟市のスポーツは、今、子どもたちが望んでいることを頑張っているんだということが見えてくるのではないかと感じています。

(五十嵐委員)

e スポーツということで、これは賛否両論があつて、親はゲームばかりやっていないでということになるのですけれども、日本はeスポーツがすごく遅れていまして、欧米だとか韓国などはプロのリーグがあるのです。日本だと、コンピューターゲームばかりやるとなりますけれども、e スポーツは国際スポーツ連盟の中の一つの大きな目玉のスポーツでありまして、マインドゲームの範疇に入っています。マインドゲームはいわゆる頭の中で判断するとか、瞬間的に仲間との共同作業だとかという範疇の、いわゆるチェスだとかカード、トランプなどもスポーツに入るのです。ですから、できるだけ我々の年齢を超えた新しい発想で、今の子どもたちに、今の世界ではどういうものがスポーツとして扱われているのかということも考えながら、そういう面では、賛否両論のあるものだと思います。日本では、大会をやる、金銭的なものは与えられない。それは、今の法律でそうなっているのです。しかしほかの国へ行くと賞金が何億出たりというものだというのも、ある程度念頭に置きながら、今の子どもたちの考えていることも理解してあげたいと思います。

(西原会長)

スポーツの価値が多様化してきているから、それに対応していかないといけないですね。

幼児期の話ですけれども、青野委員などは実際に現場でかなりやられているので、ぜひ、委員などの力も借りてやっていければと思います。

(青野委員)

1 ページに少年少女スポーツ大会とありましたけれども、幼児期運動指針というものが文部科学省から出されまして、幼少年期の実体験、運動遊び、外遊びが大切だというのが、ここを見ますと、児童ということで、小学校以降が対象になっておりますので、ぜひ、幼児からのスポーツとはいわなくても、例えばドッジボール大会であるとか鬼ごっこ大会であるとか、家族を巻き込んだようなファミリーゲームみたいな形で、親の影響というのが、特にお母さんも視点がとても子どもに影響するということも学会等で発表されておりますので、ファミリーを巻き込んだような、親も参加できるような、綱引きなども親子でできたり、そういった工夫も大切ではないかと思います。

(西原会長)

ありがとうございました。

事業の中でも、親子で一緒にできるようなイベントもあると思うので、ぜひ工夫していただいてやっていただければと思います。

(田村委員)

スポーツ推進委員の関係でたくさん予算が出ていますけれども、今おっしゃったような、世代を超えて、小さいお子さんとお母さんがスポーツをやれるという取組みをスポーツ推進

委員の方に研修していただいて、各地区でやれるといいのではないかと思います。私はソフトバレーボールもやっていて、いろいろな大会に行くのですけれども、推進委員の方たちが受付をしたり、本部をやったり盛り上げていらっしゃるのですけれども、上に立っている推進委員の方が試合の途中で、ほかの部は終わったからここも試合を終わってくださいといったことがあって、参加者のことを考えていないのかなと思うこともあるので、資質向上と新しい取組みをスポーツ推進委員には頑張っていただけないかと思います。

(西原会長)

ありがとうございました。

今日、速水委員がいると一番よかったのですけれども、ぜひ伝えていただきたいと思いません。

(齋藤委員)

どれについてという特定はできないのですけれども、三つ目に「みるスポーツ」というのがあります。私がいつも考えていることなのですけれども、一つの大会に一人でも多くの児童に参加してほしいと協会の人は考えるわけです。これはもちろん、競技をする機会をもって、スポーツに対して関心を持つ動機の一つになると思うのですが、私が日ごろ思っているのは、まさに「見るスポーツ」。多くのトップ選手、オリンピック選手だけの話ではないのですけれども、スポーツでずっと活躍している選手というのは、幼少期に何かに感動するのです。何に感動するかというと、個人の活躍。今日、イチローの引退が発表されましたけれども、イチローを見てやろうという子どもたちが全国に何人いただろうかと。別にゲームを見るだけではなくて、これは教育委員会とも連携を取っていただいて、スポーツを通じての感動のドラマ、感動の映画、そういったものを見る機会がないかなど。個人的な話ばかりですが、パラリンピックのコマーシャルで、生まれたときから私は片腕がなかったという女性が泳いでいるものがあります。あれを見て、うちの孫が、お父さん、僕は両手があるから水泳をやろうかなとぼろっと言うのです。なるほど、そういうこともあるのかなど。見るスポーツというのは、ゲームを一人でも多くの人にとという観点もあるでしょうし、スポーツというのは種目になるかもしれないけれども、スポーツを通じて、いいなと思ってもらえる。これもまた一つの、先ほど幼少期という話がありましたけれども、きっかけの一つになるのではないかと。予算化という面では非常に難しいかもしれませんが、あくまでこれも私見ですので、考慮していただくことがありましたらと思い申し上げました。

(事務局：武藤)

ドラマや映画ということではないのですけれども、そこまでの効果があるかどうかというところがあるのですけれども、例えばパラリンピアンやオリンピックの方から講演していた

だくというようなこともやっております。そういったところで、実体験の話をお聞きする中で感動を感じていただくということもあるかと思います。そういう意味では、一部、講演会などの予算は盛り込んでおりますけれども、委員がおっしゃった部分も含めて検討していきたいと思っております。

(齋藤委員)

それこそ課長が言われておりますけれども、氷上スポーツの練習を見ただけでも、すごいなと思っている新潟の子どもたちはたくさんいたと思います。やってみよう。羽生さんを見てみんな感動しているかもしれませんけれども。

(青野委員)

今のことに関連しまして、「みるスポーツ」でナショナルチームの合宿誘致ということで、ロシアの新体操チームの合宿は確定したのでしょうか。これも、ただ誘致だけではなくて、ぜひ幼少期の子どもたちが練習風景などを見て感動して、新潟は新体操が盛んなようですけども、やっていること自体頑張っていると思いますので、幼稚園、保育園で、私も授業などで新体操の幼児用のリボンなどを使ったものを運動会などでやりますと、特に女の子などはすごく興味を示して、新体操をやりたいとかという刺激になりますので、ぜひ、ナショナルチームを誘致したら、それを子どもたちにぜひ見る機会を与えていただけたら、より有効かと思えます。

(事務局：武藤)

合宿していただくだけではなく、新潟市に何かメリットがあるからこそ合宿を受けるということをございます。そのメリットの一つとして、ロシアの新体操も強豪選手がそろっていますが、トップ選手の演技を見ていただくことで刺激になるのではないかと思います。練習風景を公開する場面ですとか、地元の方とふれあう機会というのも設けますので、そこで「見るスポーツ」といいますか、感動のという部分も感じていただければと思っています。

(山内委員)

「見るスポーツ」は、プロや一流選手が中心になると思うのですがけれども、小学生、中学生で、自分たちの仲間がやっている試合の応援に意外と行っていないのです。選手と関係者は行くけれども、応援だけで行くという人はほとんどいない状態なので、そういう面で、仲間の試合を応援に行くというところから、スポーツに近づくというのも一つの手かなと思います。来年、学童の野球のマクドナルド杯の全国大会が、通常は神宮で行っているのですが、来年、オリンピックの関係で神宮が使えないということで、新潟での開催が決まっています。オリンピックが終わった翌週の17日から1週間、全国から51チームの参加でやりますので、チーム一人掛ける四、五人の父兄プラスおじいちゃん、おばあちゃん、兄弟が

来てやる大会なので、新潟市だけで会場を決めたので、エコスタを中心に、秋葉区、西蒲区、西区、中央区などの六つに分かれますので、近くの学校の人たちに来てもらおうと、よそから来て、がらがらのスタンドでやるよりは、スタンドに応援が来てくれるということで、国体などだと、地元の小中学生が割り当てを決めて、全然関係ない県の応援をしたりしていますので、そういったことも考えていただくといいのではないかと思います。

その関連で、本当は違うところでやっていたのが動いた関係で、今、聞いている範囲では、プロ野球に関してはオリンピック直後に、ベイスターズがよく、金、土、日と三連戦ということで、ほぼエコスタでの開催が決まっていますので、来年はそここのところは、平成ではなくなりますけれども、少しそういったこともいいチャンスではないかと思います。

(西原会長)

ありがとうございました。

事務局としては、今の情報は持つておられるでしょうか。あるいは、委員から具体的にお聞きして、交流を考えていただければと思います。これは、特に教育委員会を巻き込まないとなかなか。

(事務局：武藤)

今、具体的に言える部分はありませんが、検討したいと思います。

(五十嵐委員)

一つの考えであるということで聞いていただければいいのですけれども、やっているところだけ、お友達ということだけで閉鎖的になってくると困るので、メディアなどはどうなのでしょう。放送だとか、もし可能であるならば、みんな見たいということであれば、例えば新潟シティマラソンなどはテレビで放送されていますし、そういったもので広報する方法もありますし、あるいは、諸外国などへ行ったりすると、総合スポーツ施設などでは、入ると大きな画面でいろいろなスポーツをやっている風景が流されてきます。待ち時間にぼーとしているのではなくて、画面があって、いろいろなスポーツの感動的なものを絶えず流していると、目に触れる時間も増えるのではないかと思います。いわゆる見るスポーツとして、メディアはどうかなと。体育館でも、もしスクリーンみたいなものがあれば、待ち時間に触れることができると思います。

(事務局：武藤)

施設整備となるとハードルが高い部分もありますので、どこまでできるか研究していきたいと思っております。

(西原会長)

私などもたまに行くのですけれども、テレビ局はいつも、ネタがないと言うのです。スポ

ーツのネタはいっぱいあるでしょうと思っているので、やはり発信していくと、それなりに向こうも食いついてくるし、そういうもので啓発するのは非常にいいなと思いますね。

ありがとうございました。予算に関して特にありましたら、よろしいですか。

次に移ります。(3)「その他」ですが、近々に開催されるイベントの紹介がありますので、事務局から紹介をお願いいたします。

(事務局：中村)

スポーツ振興課事業グループの中村と申します。本日お配りしているカラー刷りのチラシ4点の説明をさせていただきたいと思います。

1点目が、フロアホッケーフェスティバル2019 in 新潟になります。こちらは当課事業の障がい者スポーツ推進事業におけるイベントになります。明日3月23日(土)に秋葉区総合体育館で開催されます。今年度初めて予算上で実施する事業になります。主催につきましては、知的障がい者のスポーツ振興を進めているスペシャルオリンピックス日本・新潟が行うフロアホッケーの競技大会、障がい者スポーツの体験会、ボッチャ、フライングディスク、フロアホッケーと、パラリンピアンを招へいしての講演会を開催します。講師には、北海道出身のクロスカントリースキーでパラリンピック出場経験のある加藤弘さんをお招きします。まだ、本市において、あいおいニッセイ同和損保株式会社と地方創生や地域包括連携協定というものを締結しておりまして、そのメニューの一つに障がい者スポーツ振興、障がい者スポーツの推進というものがあります。今回、あいおいニッセイ同和損保の社員の方にもボランティアとして、大会の運営などにご協力いただくことになっております。入場無料ですので、お時間がありましたらぜひお越しいただければと思います。

2点目は、新潟シティマラソン2019のチラシをご覧ください。こちらは、スポーツに限らず、本市における一大イベントとなっております新潟シティマラソンです。市民先行枠の受付開始は4月3日からとなります。一般の受付は4月17日からで、まもなく受付開始となります。

3点目は、新潟シティライド2019です。今年で7回目となります。自転車を活用しての市民の健康増進や、市内8区を回りますので、本市の魅力の再発見、県内外からライダーにたくさんお越しいただきますので、交流人口の拡大を目的に今年も6月2日に開催いたします。こちらの参加者募集については4月10日からになります。また、この募集につきましても、締切前に定員に達するものと考えております。サイクリング、自転車愛好家の増加、関心の高さを実感しているところです。

最後に、横浜DeNAベイスターズ対読売ジャイアンツのチラシをご覧ください。2019シーズンは5月8日の試合のほか、9月に読売ジャイアンツ対中日ドラゴンズということで、

NPBの公式戦としては2試合開催されます。こちら、プロ野球新潟招致委員会において、先日、ラミレス監督のトークショーもしたところですが、開催機運の醸成、観戦招待などを行いながら、一流のプレーを間近で観戦できる機会にしていきたいと思っております。横浜DeNAベイスターズについては、飯塚投手の登板も期待できますし、9月の巨人対中日においては笠原投手と、それぞれ新潟県内出身ですが、期待できると考えております。

(西原会長)

ありがとうございました。この件について何かありましたらお願いします。よろしいですか。

なければ、4に移ります。時間が少しありますので、意見交換ということで、今日は前半でいろいろなご意見をいただきましたけれども、全体を通してご意見がありましたら、お願いいたします。

(小島委員)

意見というか、個人的な質問になってしまうのですが、日和山小学校が現在の旧栄小学校の校舎に移転して2年経ちました。移転してすぐからずっと言い続けているのが、体育館の暗さです。日中も暗い、夜も暗い、卓球をしているおじいちゃんたちはボールが全く見えないと文句を言っているのですが、2年経ってもなおりません。それはスポーツ振興課の人に電気を換えてくれとかそういうことではなく、スポーツをするにあたり、例えば体育館の明るさの基準みたいなものというのはあるのですよね。

(西原会長)

あります。

(小島委員)

本当に暗いのです。今度、みんなで見に来てほしいくらいです。おとといの卒業式でも、先生方と、本当に暗いよねと言いながら卒業式を終えたのですが、その基準は学校もあるのですか。

(西原会長)

学校もあります。

(小島委員)

教育委員会に言うべきものですか。

(齋藤委員)

学校もきちんとっていないのではないですか。

(小島委員)

実は、今日も来る前に学校に話をしてきたのです。校長に直接言います。

(西原会長)

教育委員会へきちんと言えば、すぐに対応してくれると思います。

(齋藤委員)

すぐに対応しますよ。

(小島委員)

ミニバスもかかっているんで、目が疲れてしまうくらいです。多分、旧栄小学校の電気のまま、2年間もそのまま放置で、体育館は何も使わないので、原因は分かっているので、すみません。今日も教務室で基準の話をしたのですけれども、先生方はあまり知らないのです。

(西原会長)

本当は知っていなければいけないのです。

(小島委員)

そうですね。ありがとうございます。

(五十嵐委員)

小学校の体育館というのはだいたい、空調は入っていますか。

(小島委員)

何もないです。

(五十嵐委員)

最近、異常気象で6月、7月が異常に暑くなったり、体育館全体がサウナのようになるので、そういったところもこれから検討が必要。子どものスポーツを考えるならば、スポーツはいいよといいながら、体育館へ行ったら38度もあったというのでは。

(小島委員)

少年少女スポーツ大会の時期というのは本当に暑くて、今は市から熱中症対策はこうしてくださいというようなプリントを必ず渡されて大会運営はしているのです。

(五十嵐委員)

たしか教室が、学校の空調を使いなさいというのはありましたよね。

(事務局：内山)

学校の教室は冷房が入っているところもあります。

(五十嵐委員)

なぜ体育館はないのかと思うのです。遊んでいれば汗をかくから涼しくなるものではなくて、スポーツ好きな子になるには、そういったところの環境を整えてあげたいですね。

(事務局：内山)

順番的な流れとして、まず、最優先に、新年度予算で、学校の教室について冷房を導入するというので教育委員会が進めています。

(五十嵐委員)

ぜひ、運動嫌いにならないように。終わった後、きちんとシャワーも浴びれたらいいけれども。

(西原会長)

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

今日はいろいろなご意見がありましたので、ぜひ、事務局でも可能なところは反映していただいて、よりよい環境を作っていただければと思います。

以上で、本日の議事についてはすべて終了いたしましたので、事務局にお返ししたいと思います。

(司会：寺崎)

西原会長には、議事を円滑に進行いただきまして、誠にありがとうございました。本日はいただいた貴重なご意見を基に、今後もスポーツ振興に取り組んでまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、平成30年度第2回スポーツ推進審議会を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。